
雨のハイウェイ

魔Two

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨のハイウェイ

【Nコード】

N6979L

【作者名】

魔Two

【あらすじ】

母さんと父さんとタツの、曇りのち晴れしかしながらの幸せワールド

間もなく西からの低気圧が長いハイウェイに雨を落とす。そこに差し掛かるうとしているタツの車両は150キロを越えようとしていた。

その事にタツは気づいていない。

帰省のシーズンでは無かったが、タツは故郷の長崎へ向かっていた。身内の不幸の為、職場を離脱し、緊急で実家へ帰るのである。

家庭は円満だった。母と父はよく、包まない言葉を投げ合い刺々しい雰囲気を見せていたが、居心地の悪さは誰も感じていなかった。タツはよく、母に電話などで事ある毎にある冗談を言った。父はもう死んだか。母はいつも笑って茶化し、後に続く父への皮肉や悪口に敬愛さえ感じていたが、今回はその冗談に笑いもなかった。

タツはまだ、初めて身近な人間が急逝した実感を得てはいなかった。高速道路を飛ばして、その振動と熱気もあるのだろう、感覚が浮わっている、まるで夢を見ているようだった。

しかし平日の渋滞していない時間帯に、故郷へ走っている状況が、景色が近づく程に、タツの呼吸を早まらせた。

嘘だと言ってくれ……。

目が覚めた時、周囲はすでに雨に打たれていた。膝の辺りが冷たい。避けたフロントガラスから雨水が侵入していた。

次第に記憶が蘇り、意識が事態を把握しだした。

イタチか何かが飛び出し、それを避けきれず車輪に引っ掛け、雨でスリップして壁に衝突したのだった。

体の感覚は無かった。
どこからか声がする。

タツ、タツよ……。

お前に会いに来たぞ。

それは間違いなく父の声だった。

タツ……。お前はまだ死ぬ時ではない。
イタチになって、会いに来たぞ。

そのおかげで俺まで死にそうだ、とタツは笑った。

そうさ・・・わし一人でゆくのは寂しいからな。
タツも一緒にゆこう・・・

しかしタツは、死ぬのは惜しくないが、母がひとり残されるのが不安だった。

心配するな・・・今から、実家にも、あいつを迎えに行くからな・・・

迎えに？つまりそれは・・・父は母を殺す気だ！殺す気なんだ！！

叫びそうになって、タツは飛び起きた。

そこはすでに病室で、ベッドの上のタツは包帯や点滴にしがみついていた。

室内には誰もいなく、窓の外はすでに深夜の様相だった。

タツはまず、自分が生きている事に驚き、すぐに吹き出した。
父の声を聞いたのは夢だったのだ。

しかしタツは言い様の無い不安に苛まれた。幻覚とはいえ、妙に現実味のある体験だった。あれは本当に夢だったのか？

そこへ医者が見えた。

医者はタツの目覚めに笑顔を見せた。

暫く話す内に、医者は事故の経緯を訪ねてきた。

「イタチがいたんです。事故現場に死体があったはずですよ」

しかし医者は首を傾げた。タツを運んできた救急隊員によると、現場にはブレーキ痕のみで、特異な点は無く、事故の原因が不可思議だったそうなのである。

タツはおかしいと言った。イタチが何か、小動物の死体がある筈だと言った。

医者はタツの顔に異変が見れたのに気づき、指摘した。
タツは鏡を覗きこみ、驚愕した。

額に小動物の爪痕のようなアザが浮き出て来たのである・・・あれは現実だった！！父はイタチの姿を借りて、自分の元へ現れたのだ！！

直ぐ様タツは電話を借りて、実家の母を呼び出した。
もし手遅れなら・・・タツは祈るように受話器を握りしめ、呼び出し音を聞いた。

「もしもし」

「母さん？母さん！」

「助けて！」

「逃げるんだ母さん！！父さんが・・・」

「助けて！窓から・・・窓から！」

「窓から！？」

「カエルが入ってきて暴れとるんよ！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6979/>

雨のハイウェイ

2011年1月27日03時33分発行